

国内の畜産物の需給動向

牛肉

8年6月の牛肉生産量、前年同月比1.9%増

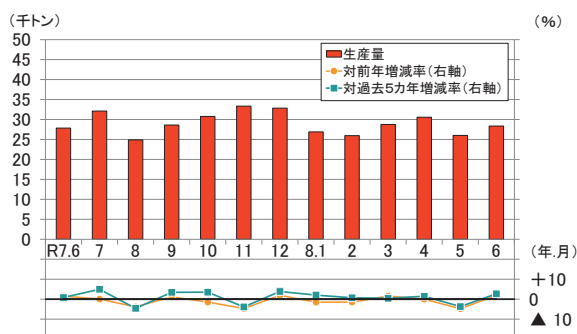
生産量

令和8年6月の牛肉生産量^(注1)は、2万8361トン（前年同月比1.9%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。品種別では、和牛は1万5088トン（同2.0%増）、交雑種は7645トン（同1.0%増）、乳用種は5581トン（同2.9%増）と、いずれも前年同月をわずかに上回った。

なお、過去5カ年の6月の平均生産量との比較でも、2.7%増とわずかに上回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

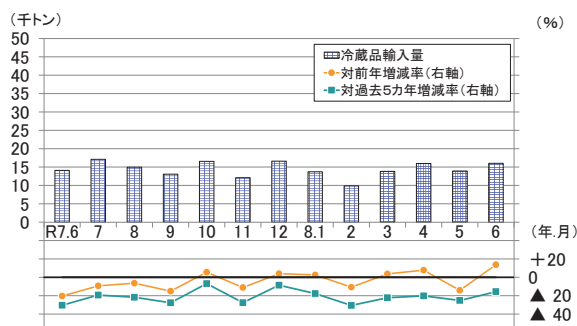
6月の輸入量について、現地価格の高止まりや為替相場の影響などがある中、冷蔵品

では、前年のような入船遅れなどによる大きな輸送の乱れがなかったことなどから、1万6025トン（前年同月比13.6%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図2）。冷蔵品では、豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加した一方、米国産ショートプレート（バラ）の輸入量が減少したことなどから、2万7281トン（同2.9%減）と前年同月をわずかに下回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)は、4万3337トン（同2.6%増）と前年同月をわずかに上回った。

なお、過去5カ年の6月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は15.6%減とかなり大きく、冷凍品は8.0%減とかなりの程度、いずれも前年同月を下回る結果となった。

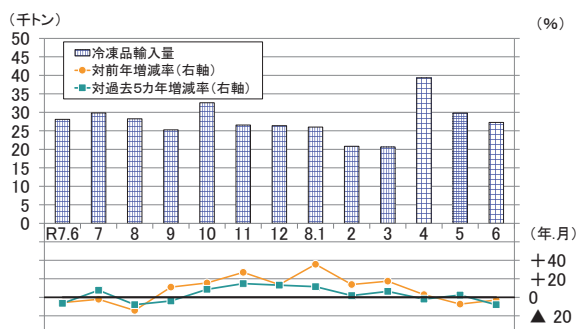
（注2）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

を含むファストフードの和風は、夏の定番メニューや新メニューの好調に加え、昨年からの異物混入の影響も薄れたことから、同8.1%増と前年同月をかなりの程度上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、台風や曜日回りが影響したことから、同0.5%減と前年同月をわずかに下回った。

(注3) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

家計消費量等

6月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注3)は140グラム（前年同月比8.4%減）と前年同月をかなりの程度下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の6月の平均消費量との比較でも、14.3%減とかなり大きく下回る結果となった。

6月の外食産業全体の売上高は、度重なる台風の接近と土日が少ない曜日回りにより客数が失速したものの、客単価上昇と店舗増に支えられたことにより、前年同月比3.3%増と前年同月をやや上回った。空梅雨傾向の前年と比較して、天候に恵まれず、気温上昇もなかったことで、台風以外の日も雨天日を中心にファミリーレストランや飲酒業態で客足は伸び悩んだ一方、ファストフードなどでは、比較的堅調に推移した（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、期間限定やキャンペーン商品の好評に加え、一部でサッカーW杯がデリバリー需要につながったことで、同5.7%増と前年同月をやや上回った。また、牛丼店

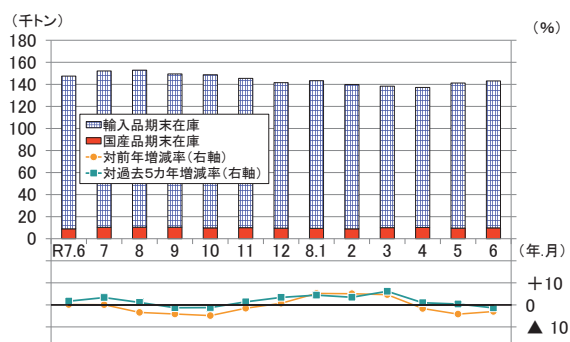
推定期末在庫・推定出回り量

6月の推定期末在庫^(注4)は、14万3086トン（前年同月比3.0%減）と前年同月をやや下回った（図4）。このうち、国産品は9865トン（同10.1%増）と前年同月をかなりの程度上回った一方、在庫の大半を占める輸入品は13万3221トン（同3.8%減）と前年同月をやや下回った。

推定出回り量^(注4)は、6万8707トン（同0.4%減）と前年同月をわずかに下回った（図5）。このうち、国産品は2万6997トン（同2.9%減）と前年同月をわずかに下回った一方、輸入品は4万1711トン（同1.3%増）と前年同月をわずかに上回った。

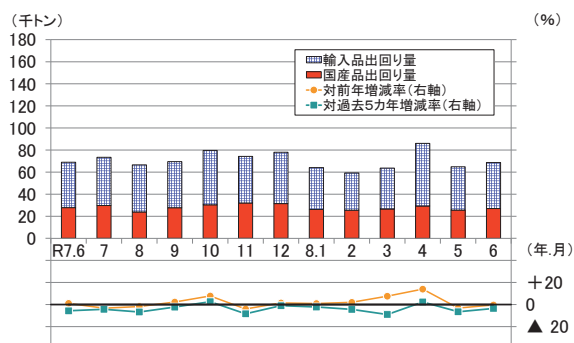
(注4) 令和8年7月の期末在庫調査において、一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、出回り量および期末在庫量については、当該推定値を用いて算出した。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

『2026年9月号の記事に関する更新について』

「畜産の情報」2026年9月号の掲載記事のうち「推定期末在庫・推定出回り量」において、発行日以降、2026年6月の各データを再算出したことに伴い、一部内容を更新いたしました。

(畜産振興部)

豚 肉

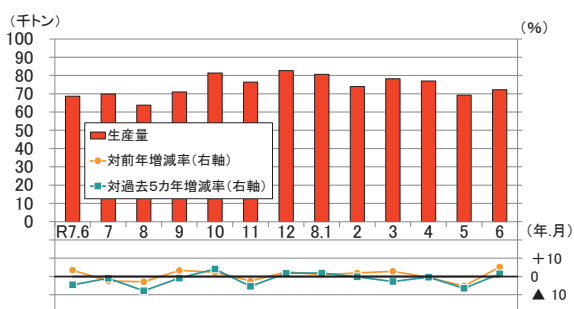
8年6月の豚肉生産量、前年同月比5.2%増

生産量

令和8年6月の豚肉生産量は、7万2158トン（前年同月比5.2%増）と前年同月をやや上回った（図1）。

なお、過去5カ年の6月の平均生産量との比較でも、1.5%増とわずかに上回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：部分肉ベース。

輸入量

6月の輸入量について、冷蔵品は、輸入豚肉への堅調な需要を背景に、米国産、カナダ

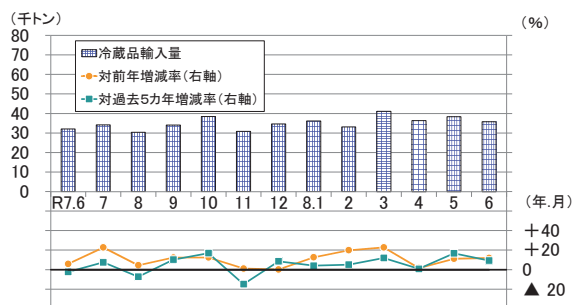
産、メキシコ産のいずれも増加し、3万5854トン（前年同月比12.0%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図2）。冷凍品は、アフリカ豚熱発生による輸入一時停止措置^(注1)の影響でスペイン産が減少した中、代替としてブラジル産、デンマーク産、オランダ産などが増加したものの、全体では、5万953トン（同1.4%減）と前年同月をわずかに下回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)では、8万6816トン（同3.7%増）と前年同月をやや上回った。

なお、過去5カ年の6月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は9.3%増とかなりの程度、冷凍品は3.1%増とやや、いずれも上回る結果となった。

(注1) 農林水産省は、令和7年11月28日にスペイン産豚肉等の輸入を一時停止。その後、同年10月29日以前にと殺・加工・梱包まで終了しているものであり、かつ輸出されるまでの間、防疫上安全かつ衛生的に保管および輸送されたものであることをスペイン政府が証明しているものについては、輸入停止措置の対象外とすることを発表。

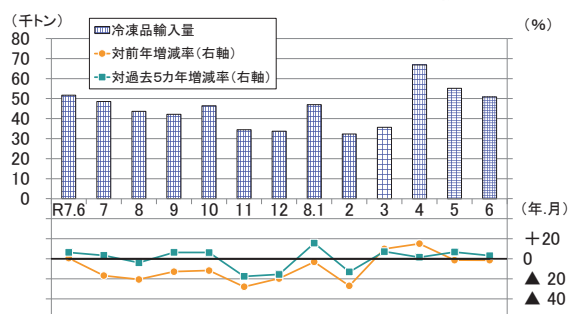
(注2) 輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

6月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注3)は、638グラム（前年同月比1.0%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の6月の平均消費量との比較でも、3.3%増とやや上回る結果となった。

（注3）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

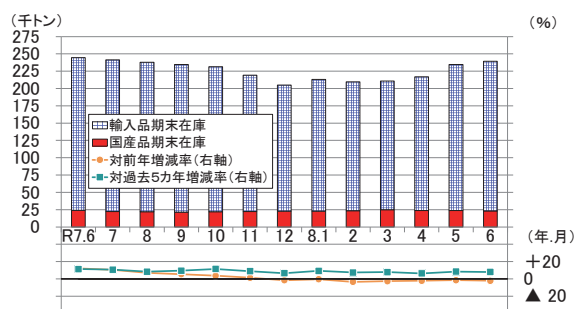
6月の推定期末在庫^(注4)は、23万9252トン（前年同月比2.2%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、国産品は2万3073トン（同3.9%減）とやや、在庫の大半を占める輸入品は21万6179トン

（同2.0%減）とわずかに、いずれも前年同月を下回った。

推定出回り量^(注4)は、15万4191トン（同5.8%増）と前年同月をやや上回った（図5）。このうち、国産品は7万2595トン（同5.9%増）、輸入品は8万1596トン（同5.7%増）と、ともに前年同月をやや上回る結果となった。

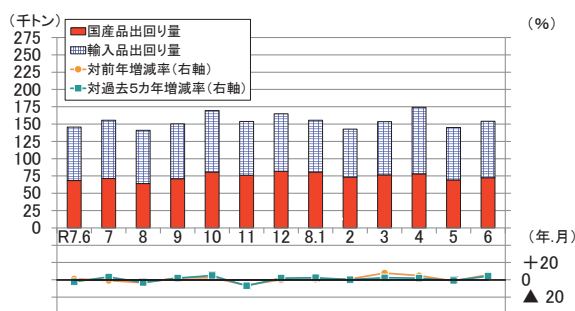
（注4）令和8年7月の期末在庫調査において、一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、出回り量および期末在庫量については、当該推定値を用いて算出した。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

『2026年9月号の記事に関する更新について』

「畜産の情報」2026年9月号の掲載記事のうち「推定期末在庫・推定出回り量」において、発行日以降、2026年6月の各データを再算出したことに伴い、一部内容を更新いたしました。

（畜産振興部）

鶏 肉

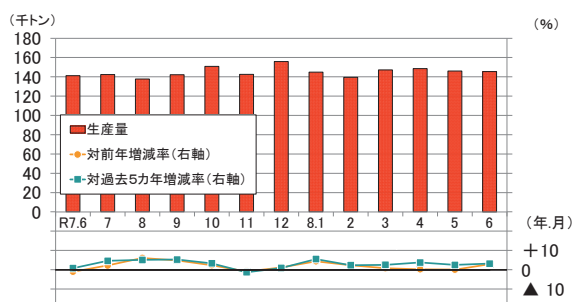
8年6月の鶏肉生産量、前年同月比3.0%増

生産量

令和8年6月の鶏肉生産量は、14万5409トン（前年同月比3.0%増）と前年同月をやや上回った（図1）。

なお、過去5カ年の6月の平均生産量との比較でも、3.2%増とやや上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



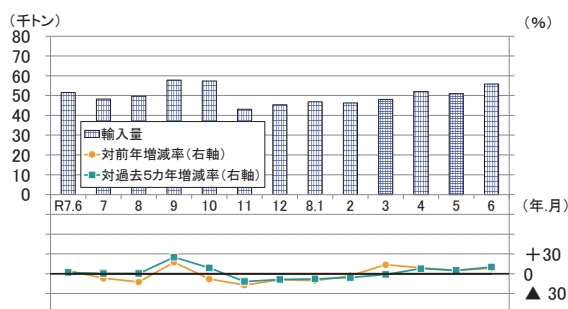
資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

輸入量

6月の輸入量は、主要輸入先のブラジルでの生産が堅調で、価格も比較的安価であったことなどから、5万5864トン（前年同月比8.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図2）。

なお、過去5カ年の6月の平均輸入量との比較でも、10.1%増とかなりの程度上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

6月の鶏肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注1)は、524グラム（前年同月比3.2%増）と前年同月をやや上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の6月の平均消費量との比較でも、3.0%増とやや上回る結果となった。

（注1）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

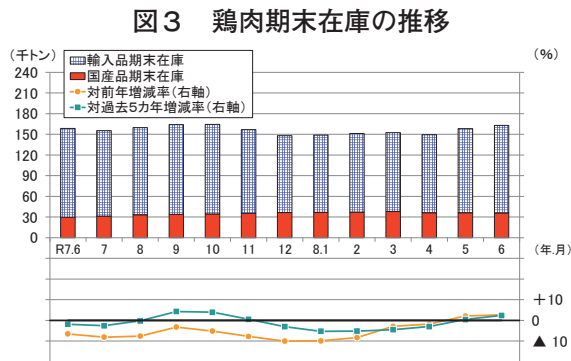
推定期末在庫・推定出回り量

6月の推定期末在庫^(注2)は、16万2941トン（前年同月比2.7%増）と前年同月をわずかに上回った（図3）。このうち、輸入品は12万7047トン（同1.4%減）と前年同月をわずかに下回った。

推定出回り量^(注2)は、19万6678トン（同3.9%増）と前年同月をやや上回った（図4）。このうち、国産品は14万5627トン（同5.2%増）と前年同月をやや上回った一方、

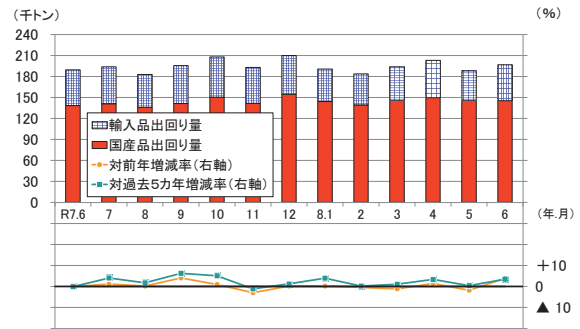
輸入品は5万1051トン（同0.3%増）と前年同月並みとなった。

（注2）令和8年7月の期末在庫調査において、一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、出回りとおよび期末在庫量については、当該推定値を用いて算出した。



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回りの推移



資料：農畜産業振興機構調べ

『2026年9月号の記事に関する更新について』
「畜産の情報」2026年9月号の掲載記事のうち「推定期末在庫・推定出回り量」において、発行日以降、2026年6月の各データを再算出したことに伴い、一部内容を更新いたしました。

（畜産振興部）

牛乳・乳製品

8年6月の生乳生産量は前年同月を1.3%下回る

6月の生乳生産量、9カ月連続で前年割れ

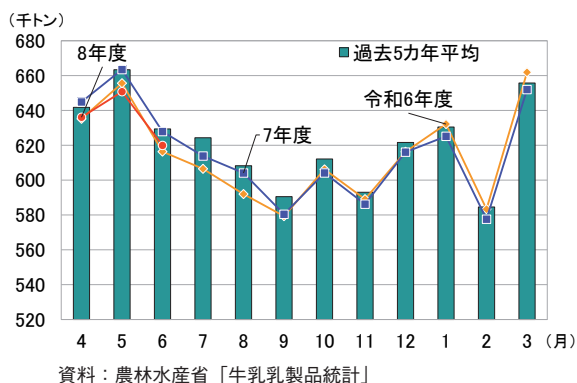
令和8年6月の生乳生産量は、主に経産牛頭数の減少により61万9916トン（前年同月比1.3%減）と、9カ月連続で前年同月を下回った（図1）。地域別では、北海道が35万9825トン（同1.6%減）と6カ月連続で

前年同月を下回り、都府県が26万91トン（同0.8%減）と10カ月連続で下回った。

6月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは32万4204トン（同1.2%減）と、11カ月連続で前年同月を下回った。特に、業務用向けは減少率が大きく、2万939トン（同3.1%減）となって13カ月連続で前年同月を下回った。

乳製品向けは29万2017トン（1.4%減）と4カ月連続で前年同月を下回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは5万5567トン（同3.4%減）と8カ月連続で下回った一方で、チーズ向けは4万152トン（同1.4%増）と10カ月連続で上回った。また、脱脂粉乳・バター等向けは14万9886トン（同2.6%減）となり、4カ月連続で前年同月を下回った（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

図1 生乳生産量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

6月の牛乳生産量、前年同月を11カ月連続で下回る

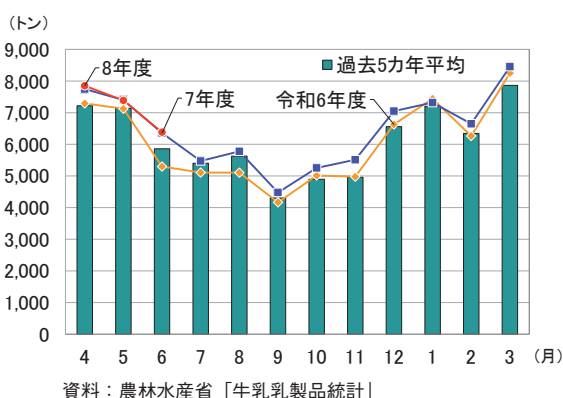
6月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、26万336キロリットル（前年同月比1.6%減）と11カ月連続で前年同月を下回った。成分調整牛乳や加工乳は値上げが影響し、成分調整牛乳が1万5257キロリットル（同10.9%減）と引き続いて前年同月を下回り、加工乳が9966キロリットル（同8.9%減）と11カ月連続で前年同月を下回った。

一方、はっ酵乳については大容量タイプが堅調に推移しており、8万9815キロリットル（同0.8%増）と6カ月ぶりに前年同月を上回った。

6月末のバターの在庫量、6カ月連続で積み増す

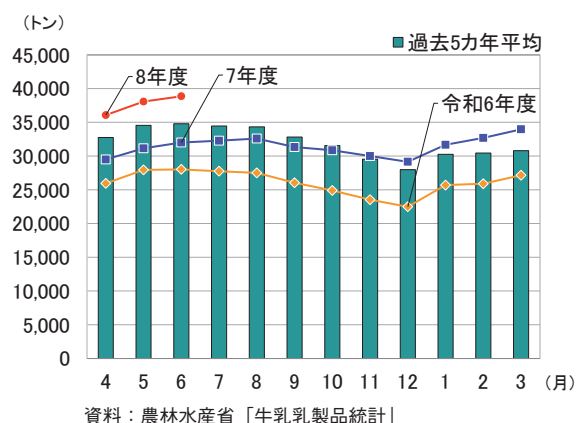
6月のバターの生産量は生乳の仕向け量が減少したものの、乳成分のうち乳脂肪率が高かったことなどから、6383トン（前年同月比0.4%増）と2カ月ぶりに前年同月を上回った（図2）。在庫量については、6月末は3万8865トン（同21.4%増）と6カ月連続で積み増した（図3）。推定出回り量は

図2 バターの生産量の推移



6655トン（同8.1%増）と5カ月ぶりに前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ）。

図3 バターの在庫量の推移



6月末の脱脂粉乳の在庫量、前年同月比24.5%増

6月の脱脂粉乳の生産量は、生乳の仕向け量の減少を受けて、1万2729トン（前年同月比2.5%減）と4カ月連続で前年同月を下回ったものの、需要量が供給量を下回って推移していることから、在庫量については、6月末は7万9460トン（同24.5%増）と19カ月連続で前年同月を上回った（図4、5）。推定出回り量は、1万1948トン（同21.1%増）と2カ月ぶりに前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ）。

図4 脱脂粉乳の生産量の推移

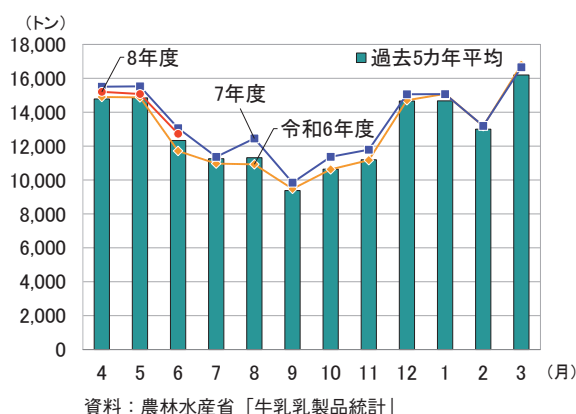
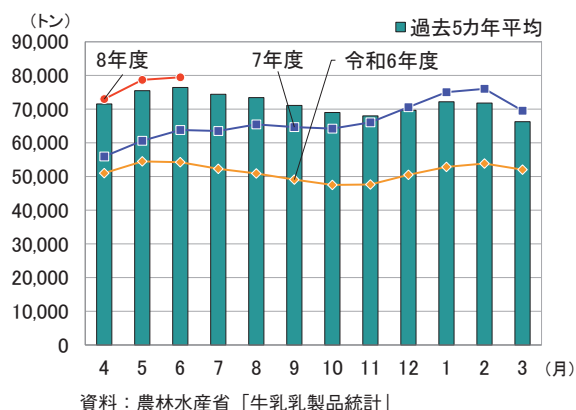


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



Ｊミルク、令和８年度の生乳生産量を733万1000トンに上方修正

一般社団法人Ｊミルク（以下「Ｊミルク」という）は令和８年７月３１日、「2026年度の生乳および牛乳乳製品の需給見通しと課題について」を公表した（表）。これによると、令和８年度の生乳生産量は、前回６月５日公表値（731万トン）から上方修正されたものの、733万1000トン（前年度比0.9%減）と、前回公表と同様に、３年ぶりに前年度を下回る見通しとなっている。地域別に見ると、北海道は428万4000トン（同0.4%減）と、前回公表の見通し同様に３年ぶりの減少、都府県は304万7000トン（同1.5%減）と５年連続の減少となる見込みである。

表 生乳生産量の見通し

（単位：千トン、％）

年度	全国		北海道		都府県	
	生産量	前年度比 (増減率)	生産量	前年度比 (増減率)	生産量	前年度比 (増減率)
令和５年度	7,324	▲2.8	4,175	▲1.9	3,149	▲4.0
６年度	7,374	0.7	4,264	2.1	3,110	▲1.3
７年度	7,396	0.3	4,303	0.9	3,093	▲0.6
８年度 (見通し)	7,331	▲0.9	4,284	▲0.4	3,047	▲1.5

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、一般社団法人Ｊミルク「2026年度の生乳および牛乳乳製品の需給見通しと課題について」（令和８年７月３１日公表）

注：令和５～７年度は実績値、８年度は見通しである。

（酪農乳業部）

鶏 卵

8 年 7 月の鶏卵卸売価格、前年同月比7.6%安

卸売価格

令和8年7月の鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）は、1キログラム当たり303円（前年同月差25円安、前年同月比7.6%安）と、前年同月の同価格をかなりの程度下回った（図）。同価格の日ごとの推移を見ると、月初の同305円から23日には同300円、28日には同295円と計2回の下落があり、月間の下落幅は同10円となった。なお、過去5カ年の7月の平均卸売価格は260円であり、それと比較すると、16.5%高と大幅に上回る結果となった。

供給面について、前年のような急激な暑さとなっていないことから、生産量は比較的安定した。需要面について、量販筋では梅雨などの影響から発注数量が減少し、外食筋も荷動きはやや弱含みで推移した。

家計消費量

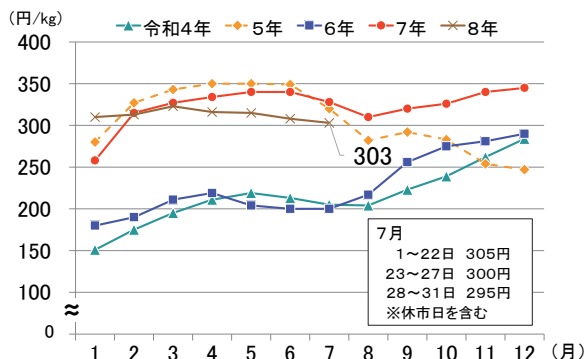
6月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）^{（注）}は、859グラム（前年同月比2.4%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の6月の平均消費量との比較でも、1.2%減とわずかに下回る結果となった。

（注）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

（畜産振興部）

図 鶏卵卸売価格（東京、Mサイズ基準値）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」

注：消費税を含まない。